# 平成３０年５月 経営協議会議事録

Ⅰ．日　時　　平成３０年５月１７日（木）　１４時００分～１６時１２分

Ⅱ．場　所　　千葉大学けやき会館　レセプションホール（３階）

Ⅲ．出席者　　徳久学長、有馬、犬養、岩田、香藤、河田、黒木、島田、銭谷、西堀、
萩原、舩橋、正宗、宮坂、
中谷、渡邉、関、山田、松浦、堀、小澤、金原、中山、山本、齊藤各委員

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　　桑古、角監事
（欠席者：加賀見、佐藤各委員）

議事に先立ち、徳久学長から、４月から新たに委員となった岩田明子委員と松浦晃幸委員の紹介があった。

Ⅳ．前回議事録について
原案のとおり承認された。

Ⅴ．審議事項（◎学外委員、○学内委員）

１．平成３１年度施設整備費要求の主な事項（案）について
松浦理事から、平成３１年度施設整備費要求の主な事項（案）について、資料に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

２．平成２９年事業年度財務諸表（素案）等の監事及び監査法人への提出について
松浦理事から、平成２９年事業年度財務諸表（素案）等の監事及び監査法人への提出について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。
主な意見は以下のとおり。

◎　財務諸表において、千葉大学として目標とする数値はあるのか。あるいは、文部科学省から方針が示されているのか。

○　大学法人は、利益をたくさん上げてお金を稼ぐ法人ではない。また、国立大学として、国民の税金で運営をしているため、無駄なことをしてはいけない。収支が同額になるように運営することが基本方針となる。

○　経常損益が一番の問題と考えている。今回は経常損益が黒字であり、収支はほぼ同額である。経常損益が大きく赤字になった場合は大胆なことをやらないと先行き資産がなくなり、いわゆる統廃合の対象になるのではないかと考えている。

◎　運営費交付金が５年前は１５７億円だったが、昨年度は１７０億円を超えている。文部科学省は毎年１％削減しており、法人化以後１０％減っていることと矛盾しているのではないか。また、人件費は地域手当が１０％から１５％になった割に増えていないのはなぜか。

○　運営交付金について、増額しているように見えるが、平成２５年度は東日本大震災の影響で国家公務員の給与を１０％削減して復興費に充てることが法律

で定められ、一律運営交付金が削減されていた。平成２６年度はそれが元に戻ったということである。人件費については、人事院勧告により、千葉市の地域手当が１０％から１５％となったが、一度に５％を上げられないので段階的に上げることとし、今年度は１２．５％としている状況である。一方、退職教員の後任補充を控えるなどして人件費を抑制しており、バランスを取りながら運営しているのが現状である。

○　運営費交付金については、千葉大学は機能強化係数が高くなっており、少し増額となっている。人件費については、運営費交付金雇用の者と外部資金雇用の者が同じ人件費の枠に入っている。運営費交付金雇用の者については、退職教員の後任を３年間補充せずに減らしている。教員数は平成１６年度から見ると２００人近く増えているが、そのほとんどが外部資金雇用で任期付きの特任教員である。増えているように見えるが、安定して雇用継続ができるのは運営交付金雇用の承継教員である。

◎　教育経費と研究経費が他の経費以上に減少している。大学として一番大事な任務であるが、このように削減してよいのか。

○　教育経費や研究経費には、設備に係る経費も含まれている。減価償却の影響により下がっている。本来は最新の設備に更新することが大切であるが、それが十分にできていない。

◎　この資料から、どこかに無駄がないか、どのように資金の配分を変えたらよいか考えることが大事だと思う。また、収入と支出いずれについても附属病院が非常に大きい。民間企業の場合、事業部ごとに収支を見て、資金は儲かる方に移していこうと考える。大学はそういった所ではないが、例えば学部ごとに整理をして、どこが一番利益を生まない分野なのか、しかしそれは非常に大事な分野なのだ、ということが見えてくるような資料を作成してみたらどうかと思う。

○　病院の場合は、経常利益を出さないと次への投資へ回らないため、つねに経常利益を意識している。

◎　８６国立大学のうち、４３大学に附属病院があるが、これだけの利益を上げているところは少ない。８割はそれほど利益が上がっておらず、むしろマイナスだと思う。このことからも非常に頑張っていると評価できる。

◎　大学の収入と支出について、人件費の削減等により、ほぼ同額によくぞ持ってきているという印象であり、大学として苦労されていると思った。国立大学が法人化する前は、教育（国立学校）に係る経費、研究所に係る経費、病院に係る経費の３つの視点から収支を見ていたが、国立大学法人になってからはまとめて見ることになった。今の財務諸表は必ずしも十分ではないと思う。今後、教育面、研究面、病院という視点を大事にしながら、それぞれ必要な経費は何かということがわかればよいのではないかと思う。

◎　非常によくまとめられていると思うが、誤解を受けやすい資料になっている。運営交付金が減っていると言いながら増えていることなどは、こういうルールだからということを脚注等に入れてもらえるとよい。また、教育経費、研究経費が減っていると、本分を疎かにしているのではないかという批判が出やすい。分類・項目をわかりやすく直していただきたいと思う。

Ⅵ．協議事項（◎学外委員、○学内委員）

１．附属病院の今後の収支見込みについて

山本副学長（病院長）から、附属病院の今後の収支見込みについて、資料に基づき説明があり、意見交換を行った。

主な意見は以下のとおり。

◎　寄付について、附属病院としての目標あるいは組織として集めているのか。

○　寄付については、現状、２つのことを行っている。１つは千葉県下の主だった企業が入っている研究助成会から２０年以上にわたって毎年寄付をいただいている。継続的にもらっているのでありがたい。それ以外に、患者さんのお志が寄付として入るような形を作っている。ただ、やはり総額３９０億円という規模から見ると金額は極めて限られていると思っている。

◎　消費税対策については、開業医のための消費税対策ではなく、病院の経営がうまくいくような対策を取るよう運動していく必要があるのではないか。

○　消費税対策については、病院団体として主張しているところである。

◎　「千葉大学病院のご案内」を患者さんに配るのであれば、例えば、この案内の最後のほうに寄付のお願いを入れて、切り取って簡単に寄付ができるような仕組みにしたらどうか。また、いただいた寄付を何に使いましたという情報公開をすると裾野が広がっていくと思う。

◎　寄付が税控除の対象となることを記載すると患者さんや関係者はより寄付をする意欲がわいてくると思う。

◎　「千葉大学病院のご案内」に海外の患者も受入れますと記載があるが、これからはオリンピック・パラリンピックもあり、成田空港も近いので、特に開発途上国などからお客が増えると思うが、人間ドックなどのサービスパッケージを作って、例えば、サマースクールで海外の留学生を受け入れて、そういったサービスを行うと収入も増えるのではないか。

○　国立大学法人がどこまで医療ツーリズムに乗り出すかというのは、非常に難しいと思う。医療資源が限られている中で地域の最後の砦として、一番難しいところを担っており、手一杯の状況である。我々の持つ限られた医療資源をどこに集中投下するかが問題で、現状では、千葉県内の他の病院では治せない病気の治療に注力すべきではないかと考えている。

◎　もしそれをやるのであれば、相当な投資が必要である。病院の施設と健診の施設を別に作らないといけないし、それなりの医師とコメディカルを確保しなければならないし、それが返ってくるのは相当後になることまで考えないといけない。健診はメディカルツーリズムも含めて、プライベートな病院がやり始めているが、苦戦している。千葉大学でそれをやるのは非常に難しい。また、高度化、先進化すればするほど医療事故が増えていく。安全を確保しながら高度先進医療を提供しなくてはいけないし、なおかつ、教育もやらなくてはいけない。千葉大学はそこがミッションだと思う。その上で余裕があればその先にいけばよいと思うが、現在は手一杯である。

２．人社系大学院における博士人材養成に向けた企業等との連携について

山田理事から、人社系大学院における博士人材養成に向けた企業等との連携につ

いて、資料に基づき説明があった。

Ⅵ. 報告事項

１．平成２９年度資金運用実績報告について

松浦理事から、平成２９年度資金運用実績報告について、資料に基づき報告があった。

２．平成３０年度科学研究費助成事業（特別推進研究）等について

関理事から、平成３０年度科学研究費助成事業において採択された特別推進研究及び交付内定状況の速報、並びに共同研究、受託研究及び奨学寄附金の受入実績について、資料に基づき報告があった。

主な意見は以下のとおり。

◎　「IceCube」という言葉はあるが、「南極」が使われていない。南極の氷を使うという言葉が入っていれば、カミオカンデではないということが直感的にわかると思う。もう少し興味を引くような文章を考えていただきたい。

３．平成３０年度千葉大学入学状況等について

渡邉理事から、平成３０年度学部・大学院の入学状況及び平成３０年度千葉大学個別学力検査等の日程について、資料に基づき報告があった。

４．その他

①大学の世界展開力強化事業（ツイン型学生派遣プログラム（ツインクル）の事後評価結果について

渡邉理事から、大学の世界展開力強化事業（ツイン型学生派遣プログラム（ツインクル）の事後評価結果について、資料に基づき報告があった。

②大学教育再生加速プログラム（高大接続）の中間評価結果について

渡邉理事から、大学教育再生加速プログラム（高大接続）の中間評価結果について、資料に基づき報告があった。

③ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）補助事業の中間評価結果について

山田理事から、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）補助事業の中間評価結果について、資料に基づき報告があった。

④「ＩＤＥ現代の高等教育」の掲載記事について

黒木委員から、「ＩＤＥ現代の高等教育」の掲載記事について、資料に基づき説明があった。

⑤今年度の開催予定等について

園部総務課長から、今年度の開催予定等について、資料に基づき説明があった。

以上